

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 9日から10日かけて、発達した低気圧がオホーツク海を北上し、別の低気圧が日本の東を北東に進む。
- 9日から11日にかけて、大陸からの高気圧が三陸沖に移動する。
- 11日から13日にかけて、気圧の谷が西日本付近から日本の東へ進み、次の高気圧が朝鮮半島付近へ移動する。

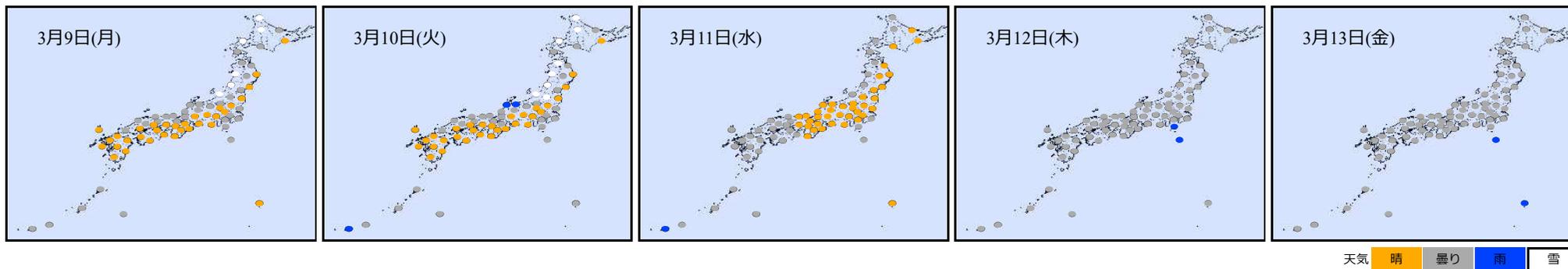
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

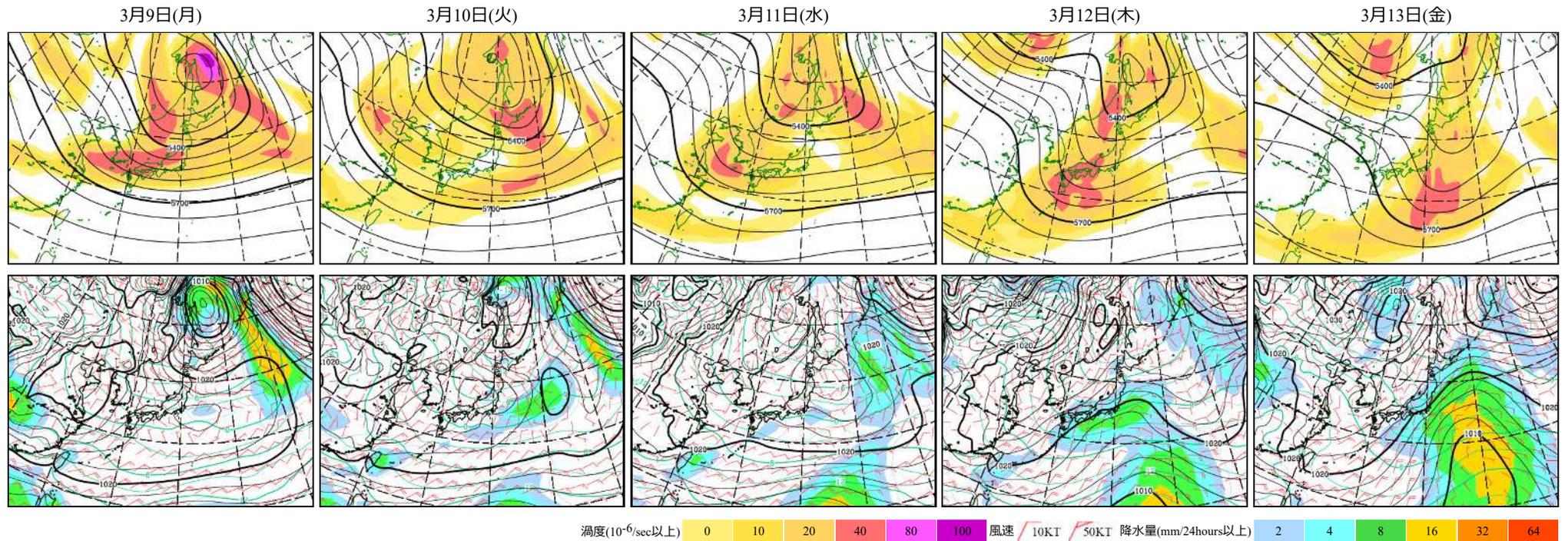
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

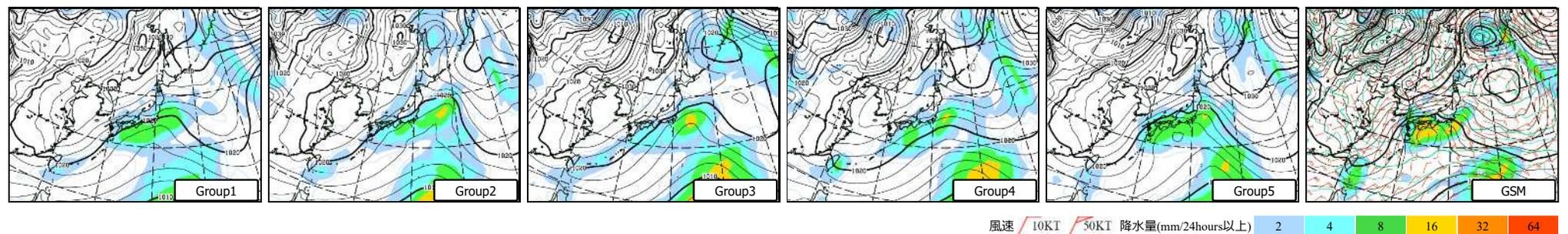


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、9日から10日は雪または雨の降る所がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、10日と11日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、11日から13日にかけて西日本付近から日本の東へ進む気圧の谷が深くなった。このため、12日は東日本太平洋側を中心に降水確率がイダンスの値が大きくなった。
- モデル間の差は10日までは小さいが、11日以降はトラフの進みや形に違いが見られ、11日から13日にかけて西日本付近から日本の東へ進む気圧の谷または低気圧の位置や勢力に違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。